

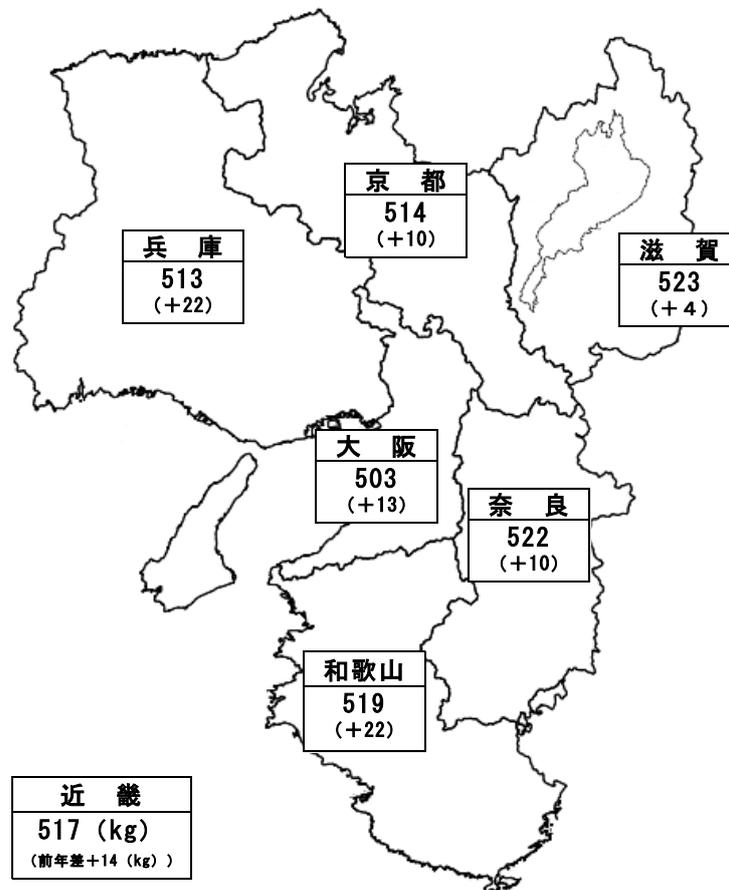
## 作物統計調査 令和4年産水稻の収穫量（近畿）

— 近畿の収穫量（主食用）は47万9,500 t —

### 【調査結果の概要】

- 1 令和4年産水稻の作付面積（子実用）は9万6,400haで、前年産に比べ2,900ha減少した。うち、主食用作付面積は9万2,800haとなった。
- 2 10 a 当たり収量は517kgで、前年産に比べ14kg増加した。
- 3 この結果、収穫量（子実用）は49万8,400 tで、前年産に比べ1,300 t 減少した。うち、主食用の収穫量は47万9,500 tとなった。
- 4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は102となった。

図1 水稻の府県別10 a 当たり収量



本資料は、近畿農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/2022.html#1209> 】

この統計調査における調査の目的、調査の対象などは【調査の概要】22ページに掲載しています。

◎ 用語の解説及び特記事項

- ・ 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- ・ 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- ・ 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- ・ 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

水稲（子実用）の年次別推移

1 近畿

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成24年産	109,100	515	561,400	107,400	552,700	101
25	109,400	518	567,200	106,900	554,000	102
26	108,000	497	537,100	104,500	519,900	98
27	105,800	508	537,200	101,900	517,700	100
28	104,500	516	538,700	100,500	519,000	102
29	103,200	510	526,600	99,400	507,000	100
30	103,100	502	517,500	99,500	498,700	98
令和元	102,600	503	516,400	99,000	498,000	99
2	101,300	490	496,000	97,700	478,000	96
3	99,300	503	499,700	95,700	481,800	99
4	96,400	517	498,400	92,800	479,500	102

資料：農林水産省統計部『作物統計』（2～7の統計表において同じ。）

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下同じ。）。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ。）。

3 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（以下同じ。）。

4 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下同じ。）。

## 2 滋賀県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成24年産	32,800	529	173,500	32,200	170,300	102
25	33,400	529	176,700	32,000	169,300	102
26	33,000	502	165,700	31,300	157,100	97
27	32,200	518	166,800	30,600	158,500	100
28	31,900	534	170,300	30,200	161,300	104
29	31,700	517	163,900	30,000	155,100	100
30	31,700	512	162,300	30,100	154,100	99
令和元	31,700	509	161,400	30,200	153,700	98
2	31,100	509	158,300	29,700	151,200	98
3	30,100	519	156,200	28,900	150,000	100
4	29,000	523	151,700	27,700	144,900	101

## 3 京都府

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成24年産	15,600	519	81,000	15,400	79,900	102
25	15,500	530	82,200	15,300	81,100	104
26	15,200	507	77,100	14,900	75,500	99
27	15,000	510	76,500	14,400	73,400	100
28	14,800	516	76,400	14,300	73,800	101
29	14,700	510	75,000	14,100	71,900	100
30	14,500	502	72,800	13,900	69,800	98
令和元	14,400	505	72,700	13,800	69,700	99
2	14,300	501	71,600	13,800	69,100	98
3	14,200	504	71,600	13,600	68,500	99
4	14,000	514	72,000	13,400	68,900	101

## 4 大阪府

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成24年産	5,680	507	28,800	5,670	28,700	102
25	5,640	502	28,300	5,630	28,300	101
26	5,550	495	27,500	5,540	27,400	100
27	5,440	495	26,900	5,440	26,900	100
28	5,310	505	26,800	5,310	26,800	102
29	5,150	506	26,100	5,150	26,100	102
30	5,010	494	24,700	5,000	24,700	99
令和元	4,850	502	24,300	4,850	24,300	101
2	4,700	472	22,200	4,700	22,200	94
3	4,620	490	22,600	4,620	22,600	99
4	4,540	503	22,800	4,540	22,800	102

## 5 兵庫県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成24年産	38,300	502	192,300	37,500	188,300	100
25	38,400	506	194,300	37,500	189,800	100
26	37,900	487	184,600	36,500	177,800	97
27	37,300	501	186,900	35,700	178,900	99
28	37,000	501	185,400	35,400	177,400	100
29	36,600	501	183,400	35,100	175,900	100
30	37,000	492	182,000	35,500	174,700	98
令和元	36,800	497	182,900	35,300	175,400	99
2	36,500	477	174,100	34,800	166,000	95
3	35,800	491	175,800	34,100	167,400	98
4	34,500	513	177,000	32,800	168,300	102

## 6 奈良県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成24年産	9,250	523	48,400	9,200	48,100	102
25	9,190	527	48,400	9,150	48,200	103
26	9,060	514	46,600	9,040	46,500	100
27	8,870	515	45,700	8,850	45,600	100
28	8,710	525	45,700	8,680	45,600	102
29	8,610	521	44,900	8,580	44,700	102
30	8,580	514	44,100	8,530	43,800	100
令和元	8,490	515	43,700	8,450	43,500	100
2	8,480	482	40,900	8,430	40,600	92
3	8,440	512	43,200	8,400	43,000	100
4	8,410	522	43,900	8,350	43,600	102

## 7 和歌山県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成24年産	7,430	504	37,400	7,430	37,400	102
25	7,380	506	37,300	7,380	37,300	102
26	7,230	492	35,600	7,230	35,600	99
27	6,900	499	34,400	6,900	34,400	101
28	6,720	507	34,100	6,720	34,100	102
29	6,560	507	33,300	6,560	33,300	102
30	6,430	492	31,600	6,430	31,600	99
令和元	6,360	494	31,400	6,360	31,400	99
2	6,250	462	28,900	6,250	28,900	92
3	6,100	497	30,300	6,100	30,300	100
4	5,980	519	31,000	5,980	31,000	105

## 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（近畿）

年 産	計	単位：%					
		1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成29年産	100.0	0.9	1.5	1.8	2.5	13.4	79.9
30	100.0	0.9	1.6	2.1	2.9	15.2	77.3
令和元	100.0	0.8	1.6	1.9	2.6	14.3	78.8
2	100.0	1.0	1.8	2.1	3.1	14.3	77.7
3	100.0	1.0	1.6	1.9	2.7	14.3	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	12.7	80.1
平均 値	100.0	0.9	1.6	2.0	2.8	14.3	78.4
対平均差（ポイント）	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.1	△ 1.6	1.7

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表 2 ふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（近畿）

年 産	単 位	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm	
		以 上	以 上	以 上	以 上	以 上	以 上	
平成29年産	10a 当たり収量	kg	510	505	498	489	476	407
	収穫量	t	526,600	521,900	514,000	504,500	491,300	420,800
30	10a 当たり収量	kg	502	497	489	479	464	388
	収穫量	t	517,500	512,800	504,600	493,700	478,700	400,000
令和元	10a 当たり収量	kg	503	499	491	481	468	396
	収穫量	t	516,400	512,300	504,000	494,200	480,800	406,900
2	10a 当たり収量	kg	490	485	476	466	451	381
	収穫量	t	496,000	491,000	482,100	471,700	456,300	385,400
3	10a 当たり収量	kg	503	498	490	480	467	395
	収穫量	t	499,700	494,700	486,700	477,200	463,700	392,300
4	10a 当たり収量	kg	517	512	505	495	480	414
	収穫量	t	498,400	493,900	486,400	477,000	462,500	399,200
	対前年比	%	100	100	100	100	100	102

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、近畿の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、近畿の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

## 【調査結果】

### 1 近畿

#### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は9万6,400haで、前年産に比べ2,900ha減少した。うち、主食用作付面積は9万2,800haとなった。

#### (2) 作柄概況

ア 全もみ数は、1穂当たりもみ数がやや多くなった兵庫県は「やや多い」、その他の府県は「平年並み」となった。

イ 登熟は、登熟期間を通しておおむね天候に恵まれたこと等から、和歌山県は「やや良」、滋賀県、京都府、大阪府及び奈良県は「平年並み」となったものの、全もみ数がやや多かったことによる相反作用等があった兵庫県は「やや不良」となった。

ウ 被害は、各府県において、風雨による倒伏、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による食害がみられたほか、いもち病、紋枯病の発生やシカ・イノシシ等による獣害がみられた。また、カメムシによる吸汁害や早生品種を中心に夏場の高温による白未熟粒の発生がみられた。

エ 以上のことから、近畿の10a当たり収量は517kg（前年産に比べ14kg増加）となった。

#### (3) 収穫量

収穫量（子実用）は49万8,400t（前年産に比べ1,300t減少）となった。

うち、収穫量（主食用）は47万9,500tとなった。

#### (4) 玄米のふるい目幅別重量分布状況

ふるい目幅別重量分布状況は、2.00mm以上の玄米の重量割合が80.1%で、直近5か年平均値に比べ1.7ポイント高くなった。

#### (5) 作況指数

農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は102（やや良）となった。また、府県別では、和歌山県は105（やや良）、大阪府、兵庫県及び奈良県は102（やや良）、滋賀県及び京都府は101（平年並み）となった。

図2 水稻の府県別・作柄表示地帯別作況指数

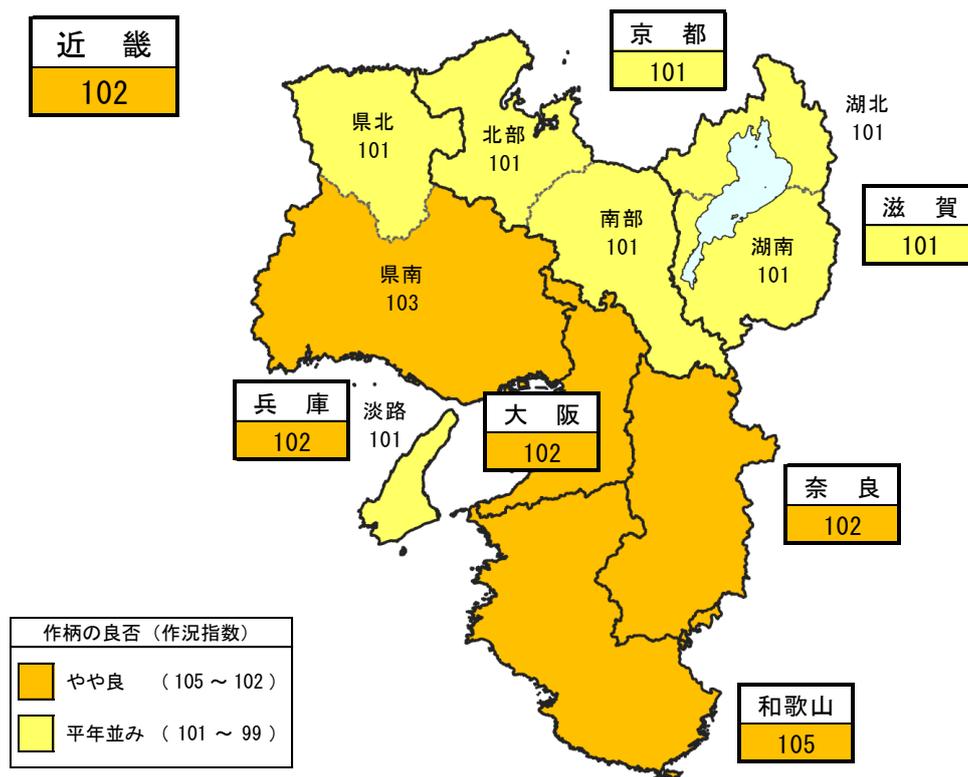


表3 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量

区分	作付面積(子実用)			10a当たり収量		収穫量(子実用)			主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②	作況指数
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産との比較 対差	実数 ③=①×②	前年産との比較				
		対差	対比				対差	対比			
近畿	96,400 ha	△2,900 ha	97 %	517 kg	14 kg	498,400 t	△1,300 t	100 %	92,800 ha	479,500 t	102

表4 令和4年産玄米のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
近畿	重量割合	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	12.7	80.1
	平均値	100.0	0.9	1.6	2.0	2.8	14.3	78.4
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△0.1	△0.1	0.1	△1.6	1.7

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

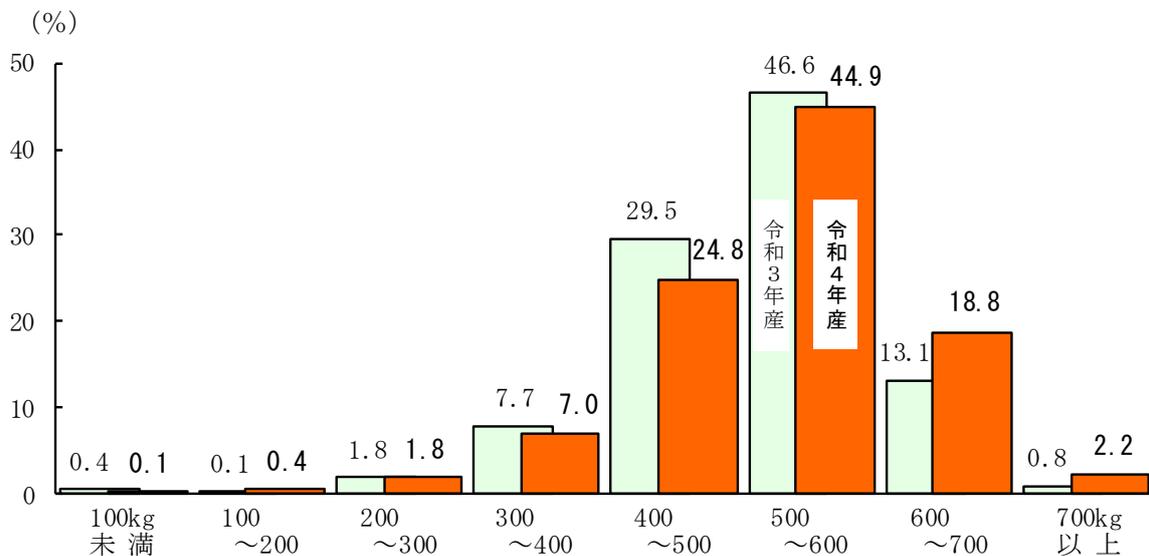
表5 令和4年産玄米のふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)

区分		単位	1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上
近畿	10a当たり収量	kg	517	512	505	495	480	414
	収穫量(子実用)	t	498,400	493,900	486,400	477,000	462,500	399,200

注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、近畿の10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量(子実用)とは、近畿の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

図3 令和4年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況(近畿)



注：10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

## 2 滋賀県

図4 作況指数

### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は2万9,000haで、前年産に比べ1,100ha減少した。

うち、主食用作付面積は2万7,700haとなった。

### (2) 作柄概況

ア 全もみ数は、湖南、湖北ともに生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となり、滋賀県では「平年並み」となった。

イ 登熟は、出穂期以降の8月中旬～下旬が日照不足で経過したものの、7月下旬～8月上旬が高温・多照であったこと、9月以降の気温が平年を上回って経過したこと等から、湖南、湖北ともに「平年並み」となり、滋賀県では「平年並み」となった。

ウ 被害は、一部地域で8月上旬の大雨による河川の氾濫で浸水・冠水したほ場がみられたほか、8月中旬以降の降雨により各地で倒伏がみられた。また、いもち病の発生やカメムシによる吸汁害がみられた。

エ 以上のことから、10a当たり収量は、湖南は532kg（前年産に比べ5kg増加）、湖北は505kg（同3kg増加）となり、滋賀県では523kg（同4kg増加）となった。

### (3) 収穫量

収穫量（子実用）は15万1,700t（前年産に比べ4,500t減少）となった。

うち、収穫量（主食用）は14万4,900tとなった。

### (4) 作況指数

農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.90mm）の作況指数は、湖南、湖北ともに101（平年並み）となり、滋賀県では101（平年並み）となった。

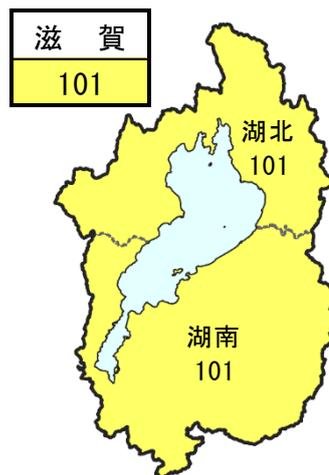


表6 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量（滋賀県）

府・県 作柄表示地帯	作付面積（子実用）			10a当たり収量				
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	農家等が使用しているふるい目幅で選別			
		対差	対比		最も多い使用割合の目幅 ③	10a当たり収量 ④	10a当たり 平年収量 ⑤	作況指数 ⑥=④/⑤
滋賀	29,000 ha	△ 1,100 ha	96 %	523 kg	1.90 mm	487 kg	483 kg	101
湖南	19,900	△ 800	96	532	…	497	491	101
湖北	9,100	△ 340	96	505	…	468	464	101

府・県 作柄表示地帯	収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ⑧	収穫量 （主食用） ⑨=⑧×②	作柄概況	
	実数 ⑦=①×②	前年産との比較				全もみ数の 多 少	登熟の良否
		対差	対比				
滋賀	151,700 t	△ 4,500 t	97 %	27,700 ha	144,900 t	平年並み	平年並み
湖南	105,900	△ 3,200	97	…	…	平年並み	平年並み
湖北	46,000	△ 1,400	97	…	…	平年並み	平年並み

注：1 ②10a当たり収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ。）。  
 2 ④10a当たり収量、⑤10a当たり平年収量及び⑥作況指数については、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下同じ。）。  
 3 ③最も多い使用割合の目幅、⑧主食用作付面積及び⑨収穫量（主食用）の作柄表示地帯については取りまとめていないため「…」で示している（以下同じ。）。

### 3 京都府

図5 作況指数

(1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積(子実用)は1万4,000haで、前年産に比べ200ha減少した。

うち、主食用作付面積は1万3,400haとなった。

(2) 作柄概況

ア 全もみ数は、南部、北部ともに生育期間を通しておむね天候に恵まれたことから「平年並み」となり、京都府では「平年並み」となった。

イ 登熟は、8月中旬～9月上旬が日照不足で経過したものの、7月下旬～8月上旬が高温・多照で経過したこと、9月中旬以降は気温が平年を上回って経過したこと等から、南部、北部ともに「平年並み」となり、京都府では「平年並み」となった。

ウ 被害は、局地的な大雨による倒伏等がみられたほか、いもち病、紋枯病が散見された。また、カメムシによる吸汁害がみられた。

エ 以上のことから、10a当たり収量は、南部は521kg(前年産に比べ8kg増加)、北部は506kg(同12kg増加)となり、京都府では514kg(同10kg増加)となった。

(3) 収穫量

収穫量(子実用)は7万2,000t(前年産に比べ400t増加)となった。

うち、収穫量(主食用)は6万8,900tとなった。

(4) 作況指数

農家等が使用しているふるい目幅ベース(1.85mm)の作況指数は、南部、北部ともに101(平年並み)となり、京都府では101(平年並み)となった。

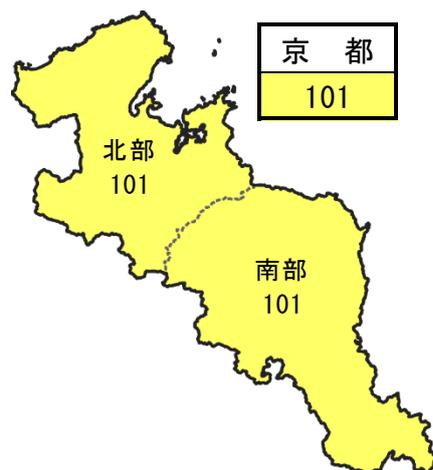


表7 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量(京都府)

府・県 作柄表示地	作付面積(子実用)			10a当たり収量					
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作況指数 ⑥=④/⑤
		対差	対比		最も多い使用割合の目幅 ③	10a当たり収量 ④	10a当たり 平年収量 ⑤		
	ha	ha	%	kg	mm	kg	kg		
京都	14,000	△ 200	99	514	1.85	497	492	101	
南部	7,050	△ 130	98	521	...	503	496	101	
北部	6,930	△ 90	99	506	...	491	488	101	

府・県 作柄表示地	収穫量(子実用)			主食用 作付面積 ⑧	収穫量 (主食用) ⑨=⑧×②	作柄概況	
	実数 ⑦=①×②	前年産との比較				全もみ数の 多 少	登熟の良否
		対差	対比				
	t	t	%	ha	t		
京都	72,000	400	101	13,400	68,900	平年並み	平年並み
南部	36,700	△ 100	100	...	...	平年並み	平年並み
北部	35,100	400	101	...	...	平年並み	平年並み

#### 4 大阪府

図6 作況指数

(1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は4,540haで、前年産に比べ80ha減少した。

うち、主食用作付面積は4,540haとなった。

(2) 作柄概況

ア 全もみ数は、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となった。

イ 登熟は、出穂期以降の8月下旬が日照不足で経過したことから初期登熟が緩慢となったものの、9月以降は気温・日照時間ともに平年を上回って経過したこと等から「平年並み」となった。

ウ 被害は、局地的な大雨による倒伏やスクミリンゴガイによる食害がみられたほか、山間部でシカ・イノシシ等の獣害がみられた。

エ 以上のことから、10a当たり収量は503kg（前年産に比べ13kg増加）となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は2万2,800t（前年産に比べ200t増加）となった。

うち、収穫量（主食用）は2万2,800tとなった。

(4) 作況指数

農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は102（やや良）となった。

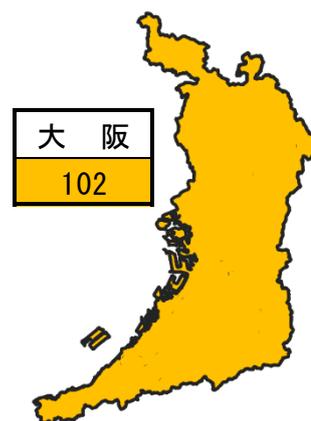


表8 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量（大阪府）

府・県 作柄表示地	作付面積（子実用）			10a当たり収量				
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	農家等が使用しているふるい目幅で選別			
		対差	対比		最も多い使用割合の目幅 ③	10a当たり収量 ④	10a当たり平年収量 ⑤	作況指数 ⑥=④/⑤
	ha	ha	%	kg	mm	kg	kg	
大阪	4,540	△ 80	98	503	1.80	489	478	102

府・県 作柄表示地	収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ⑧	収穫量 （主食用） ⑨=⑧×②	作柄概況	
	実数 ⑦=①×②	前年産との比較				全もみ数の 多 少	登熟の良否
		対差	対比				
	t	t	%	ha	t		
大阪	22,800	200	101	4,540	22,800	平年並み	平年並み

## 5 兵庫県

### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は3万4,500haで、前年産に比べ1,300ha減少した。

うち、主食用作付面積は3万2,800haとなった。

### (2) 作柄概況

ア 全もみ数は、県南は穂数が平年並みであったことに加え、幼穂形成期の高温・多照により1穂当たりもみ数が平年を上回ったことから「やや多い」となった。また、県北、淡路は生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となり、兵庫県では「やや多い」となった。

イ 登熟は、県南は全もみ数がやや多くなったことによる相反作用や出穂期以降の8月中旬～下旬が日照不足で経過したことから「やや不良」となった。また、出穂期以降おおむね天候に恵まれた県北は「やや良」、淡路は「平年並み」となり、兵庫県では「やや不良」となった。

ウ 被害は、台風や秋雨前線等の大雨による倒伏がみられたほか、一部地域でいもち病、紋枯病の発生、スクミリングガイによる食害がみられた。また、早生品種を中心に夏場の高温による白未熟粒の発生、カメムシによる吸汁害がみられた。

エ 以上のことから、10a当たり収量は、県南は515kg（前年産に比べ23kg増加）、県北は504kg（同19kg増加）、淡路は510kg（同14kg増加）となり、兵庫県では513kg（同22kg増加）となった。

### (3) 収穫量

収穫量（子実用）は17万7,000t（前年産に比べ1,200t増加）となった。

うち、収穫量（主食用）は16万8,300tとなった。

### (4) 作況指数

農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は、県南は103（やや良）、県北及び淡路は101（平年並み）となり、兵庫県では102（やや良）となった。

図7 作況指数

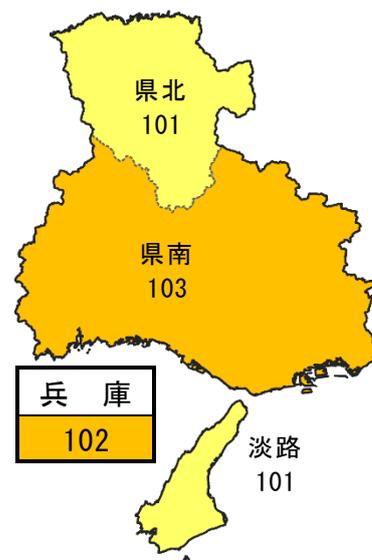


表9 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量（兵庫県）

府・ 県 作柄表示 地帯	作付面積（子実用）			10a当たり収量				
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	農家等が使用しているふるい目幅で選別			
		対差	対比		最も多い使用割合の目幅 ③	10a当たり収量 ④	10a当たり 平年収量 ⑤	作況 指数 ⑥=④/⑤
ha	ha	%	kg	mm	kg	kg		
兵 庫 県	34,500	△ 1,300	96	513	1.85	487	477	102
県 南	26,100	△ 1,100	96	515	…	489	477	103
県 北	5,410	△ 130	98	504	…	489	483	101
淡 路	2,960	△ 120	96	510	…	476	471	101

府・ 県 作柄表示 地帯	収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ⑧	収穫量 （主食用） ⑨=⑧×②	作柄概況	
	実数 ⑦=①×②	前年産との比較				全もみ数の 多 少	登熟の良否
		対差	対比				
t	t	%	ha	t			
兵 庫 県	177,000	1,200	101	32,800	168,300	やや多い	やや不良
県 南	134,400	600	100	…	…	やや多い	やや不良
県 北	27,300	400	101	…	…	平年並み	やや良
淡 路	15,100	△ 200	99	…	…	平年並み	平年並み

## 6 奈良県

図8 作況指数

### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積（子実用）は8,410haで、前年産に比べ30ha減少した。

うち、主食用作付面積は8,350haとなった。

### (2) 作柄概況

ア 全もみ数は、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となった。

イ 登熟は、出穂期以降の8月下旬が日照不足で経過したことから初期登熟が緩慢となったものの、9月以降は気温・日照時間ともに平年を上回って経過したこと等から「平年並み」となった。

ウ 被害は、スクミリングガイによる食害等がみられたほか、山間部でいもち病の発生やシカ・イノシシ等による獣害がみられた。

エ 以上のことから、10a当たり収量は522kg（前年産に比べ10kg増加）となった。

### (3) 収穫量

収穫量（子実用）は4万3,900t（前年産に比べ700t増加）となった。

うち、収穫量（主食用）は4万3,600tとなった。

### (4) 作況指数

農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は102（やや良）となった。

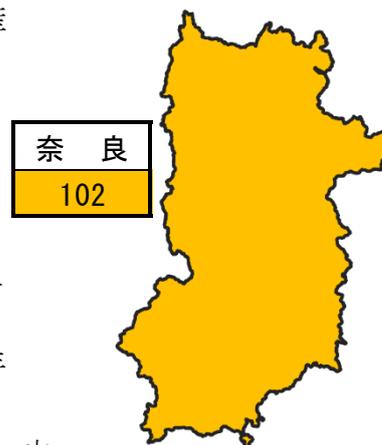


表10 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量（奈良県）

府・ 県 作柄表示 地帯	作付面積（子実用）			10a当たり収量				
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	農家等が使用しているふるい目幅で選別			
		対差	対比		最も多い使用割合の目幅 ③	10a当たり収量 ④	10a当たり 平年収量 ⑤	作況 指数 ⑥=④/⑤
奈良	8,410 ha	△ 30 ha	100 %	522 kg	1.80 mm	512 kg	500 kg	102

府・ 県 作柄表示 地帯	収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ⑧	収穫量 （主食用） ⑨=⑧×②	作柄概況	
	実数 ⑦=①×②	前年産との比較				全もみ数の 多 少	登熟の良否
		対差	対比				
奈良	43,900 t	700 t	102 %	8,350 ha	43,600 t	平年並み	平年並み

## 7 和歌山県

図9 作況指数

### (1) 作付面積

令和4年産水稻の作付面積(子実用)は5,980haで、前年産に比べ120ha減少した。

うち、主食用作付面積は5,980haとなった。

### (2) 作柄概況

ア 全もみ数は、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となった。

イ 登熟は、出穂期以降の気温が平年を上回って経過したことや9月以降の気温日較差が大きかったこと等から「やや良」となった。

ウ 被害は、台風等の強風雨による倒伏が散見されたほか、シカ・イノシシ等による獣害、スクミリングガイによる食害等がみられた。また、カメムシによる吸汁害、夏場の高温による白未熟粒の発生がみられた。

エ 以上のことから、10a当たり収量は519kg(前年産に比べ22kg増加)となった。

### (3) 収穫量

収穫量(子実用)は3万1,000t(前年産に比べ700t増加)となった。

うち、収穫量(主食用)は3万1,000tとなった。

### (4) 作況指数

農家等が使用しているふるい目幅ベース(1.80mm)の作況指数は105(やや良)となった。



表11 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量(和歌山県)

府・県 ・ 作柄表示地	作付面積(子実用)			10a当たり収量					
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	農家等が使用しているふるい目幅で選別				作況指数 ⑥=④/⑤
		対差	対比		最も多い使用割合の目幅 ③	10a当たり収量 ④	10a当たり 平年収量 ⑤	kg	
ha	ha	%	kg	mm	kg	kg			
和歌山	5,980	△ 120	98	519	1.80	511	485	105	

府・県 ・ 作柄表示地	収穫量(子実用)			主食用 作付面積 ⑧	収穫量 (主食用) ⑨=⑧×②	作柄概況	
	実数 ⑦=①×②	前年産との比較				全もみ数の 多 少	登熟の良否
		対差	対比				
t	t	%	ha	t			
和歌山	31,000	700	102	5,980	31,000	平年並み	やや良

# 【統計表】

統計表一覧	ページ
1 令和4年産水稻の府県別作付面積及び収穫量	15
2 令和4年産水稻の府県別作柄概況及び耕種期日	16
3 令和4年産水稻の収量構成要素（水稻作況標本筆調査成績）	16
4 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況	17
5 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）	18
6 令和4年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況	18
7 令和4年産水稻の被害面積及び被害量（近畿）	19

## 利用上の注意

- 1 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原数		6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。

- 「0.0」 : 増減がないもの
- 「—」 : 事実のないもの
- 「…」 : 事実不詳又は調査を欠くもの
- 「△」 : 負数又は減少したもの

- 3 この資料に掲載された数値等を他に転載する場合は、「作物統計調査 令和4年産水稻の収穫量（近畿）」（近畿農政局）による旨を記載してください。

# 1 令和4年産水稻の府県別作付面積及び収穫量

府 県 ・ 作柄表示 地 帯	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量				
	実 数 ①	前 年 産 と の 比 較		実 数 ②	農家等が使用しているふるい目幅で選別			
		対 差	対 比		最も多い使用 割合の目幅 ③	10 a 当たり 収 量 ④	10 a 当たり 平年収量 ⑤	作 況 指 数 ⑥=④/⑤
	ha	ha	%	kg	mm	kg	kg	
近 畿	96,400	△ 2,900	97	517	…	492	483	102
滋 賀	29,000	△ 1,100	96	523	1.90	487	483	101
湖 南	19,900	△ 800	96	532	…	497	491	101
湖 北	9,100	△ 340	96	505	…	468	464	101
京 都	14,000	△ 200	99	514	1.85	497	492	101
南 部	7,050	△ 130	98	521	…	503	496	101
北 部	6,930	△ 90	99	506	…	491	488	101
大 阪	4,540	△ 80	98	503	1.80	489	478	102
兵 庫	34,500	△ 1,300	96	513	1.85	487	477	102
県 南	26,100	△ 1,100	96	515	…	489	477	103
県 北	5,410	△ 130	98	504	…	489	483	101
淡 路	2,960	△ 120	96	510	…	476	471	101
奈 良	8,410	△ 30	100	522	1.80	512	500	102
和 歌 山	5,980	△ 120	98	519	1.80	511	485	105

府 県 ・ 作柄表示 地 帯	収 穫 量 （ 子 実 用 ）			主 食 用 作 付 面 積 ⑧	収 穫 量 （ 主 食 用 ） ⑨=⑧×②
	実 数 ⑦=①×②	前 年 産 と の 比 較			
		対 差	対 比		
	t	t	%	ha	t
近 畿	498,400	△ 1,300	100	92,800	479,500
滋 賀	151,700	△ 4,500	97	27,700	144,900
湖 南	105,900	△ 3,200	97	…	…
湖 北	46,000	△ 1,400	97	…	…
京 都	72,000	400	101	13,400	68,900
南 部	36,700	△ 100	100	…	…
北 部	35,100	400	101	…	…
大 阪	22,800	200	101	4,540	22,800
兵 庫	177,000	1,200	101	32,800	168,300
県 南	134,400	600	100	…	…
県 北	27,300	400	101	…	…
淡 路	15,100	△ 200	99	…	…
奈 良	43,900	700	102	8,350	43,600
和 歌 山	31,000	700	102	5,980	31,000

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。  
2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。  
3 近畿の収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については、府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。  
4 ②10 a 当たり収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
5 ④10 a 当たり収量、⑤10 a 当たり平年収量及び⑥作況指数については、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。  
6 ③最も多い使用割合の目幅、⑧主食用作付面積及び⑨収穫量（主食用）の作柄表示地帯については取りまとめていないため「…」で示している。

## 2 令和4年産水稻の府県別作柄概況及び耕種期日

府 県 作柄表示地	作柄概況（平年比較）				耕種期日					
	穂数の多少	1穂当たりもみ数の多	全もみ数の少	登熟の良否	田植期		出穂期		刈取期	
					最盛期	対平年差	最盛期	対平年差	最盛期	対平年差
				月 日		月 日		月 日		
滋 賀	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	5. 9	1日早	7. 29	2日早	9. 14	1日早
湖 南	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	5. 8	並 み	7. 28	2日早	9. 13	1日早
湖 北	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	5. 12	並 み	7. 30	2日早	9. 15	1日遅
京 都	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	5. 22	1日早	7. 31	1日早	9. 22	3日早
南 部	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	5. 28	並 み	8. 4	2日早	10. 2	1日早
北 部	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	5. 15	2日早	7. 25	1日早	9. 11	4日早
大 阪	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	6. 8	並 み	8. 22	1日早	10. 11	1日早
兵 庫	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	6. 3	1日早	8. 9	1日早	9. 27	3日早
県 南	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	6. 4	1日早	8. 10	1日早	9. 30	3日早
県 北	平年並み	やや少ない	平年並み	やや良	5. 15	並 み	7. 25	2日早	9. 13	2日早
淡 路	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	6. 17	並 み	8. 17	1日早	9. 26	2日早
奈 良	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	6. 7	1日早	8. 23	1日早	10. 14	並 み
和 歌 山	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良	6. 5	並 み	8. 5	2日早	9. 20	1日遅

注：田植期の最盛期とは田植済面積割合が50%に達した期日である。出穂期及び刈取期についても同様である。

## 3 令和4年産水稻の収量構成要素（水稻作況標本筆調査成績）

府 県	1㎡当たり株数		1株当たり有効穂数		1㎡当たり有効穂数		1穂当たりもみ数		1㎡当たり全もみ数		千もみ当たり収量		
	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	
		株	%	本	%	本	%	粒	%	百粒	%	g	%
近 畿	15.9	99	22.1	101	352	100	82.1	102	289	102	18.2	99	
滋 賀	16.5	100	22.4	99	369	99	81.8	102	302	101	17.6	99	
京 都	15.9	97	21.7	103	345	100	81.4	100	281	100	18.6	101	
大 阪	15.4	99	23.1	100	355	99	82.5	102	293	101	17.4	101	
兵 庫	15.6	98	21.9	103	341	101	81.5	103	278	104	18.8	98	
奈 良	15.2	97	23.3	103	354	99	84.2	102	298	101	17.8	101	
和歌山	15.3	96	22.5	101	345	97	83.2	105	287	101	18.3	103	

府 県	粗玄米粒数歩合		玄米粒数歩合		玄米千粒重		10a当たり粗玄米重		玄米重歩合		10a当たり玄米重		
	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	
		%	%	%	%	g	%	kg	%	%	%	kg	%
近 畿	86.5	98	95.6	101	22.0	101	539	102	97.6	100	526	102	
滋 賀	83.1	97	96.0	100	22.1	102	547	101	97.4	100	533	101	
京 都	89.0	100	95.2	100	21.9	100	535	101	97.6	100	522	101	
大 阪	84.6	96	96.0	102	21.4	102	523	100	97.5	101	510	102	
兵 庫	89.9	99	94.8	100	22.0	100	537	102	97.2	100	522	102	
奈 良	85.2	99	96.1	101	21.7	100	540	101	98.0	101	529	102	
和歌山	85.4	99	96.7	103	22.2	101	536	103	98.1	101	526	104	

注：1 対平年比とは、過年次の作況標本筆結果から作成した収量構成要素（1㎡当たり株数等）の平年値との対比である。

2 千もみ当たり収量、玄米千粒重及び10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

#### 4 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況

単位：％

府 県 作柄表示 地 帯	区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
近 畿	重 量 割 合	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	12.7	80.1
	平 均 値	100.0	0.9	1.6	2.0	2.8	14.3	78.4
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.1	△ 1.6	1.7
滋 賀 (1.90mm)	重 量 割 合	100.0	0.9	1.4	1.9	2.7	11.1	82.0
	平 均 値	100.0	0.9	1.4	1.8	2.4	13.4	80.1
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	△ 2.3	1.9
湖 南	重 量 割 合	100.0	0.8	1.3	1.8	2.7	10.1	83.3
	平 均 値	100.0	0.9	1.4	1.8	2.3	12.3	81.3
	対平均差 (ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.0	0.4	△ 2.2	2.0
湖 北	重 量 割 合	100.0	1.0	1.6	2.0	2.7	13.2	79.5
	平 均 値	100.0	1.0	1.6	1.9	2.5	16.0	77.0
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	△ 2.8	2.5
京 都 (1.85mm)	重 量 割 合	100.0	0.7	1.1	1.5	2.6	10.6	83.5
	平 均 値	100.0	0.7	1.2	1.6	2.3	11.0	83.2
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.3	△ 0.4	0.3
南 部	重 量 割 合	100.0	0.8	1.1	1.6	2.6	10.8	83.1
	平 均 値	100.0	0.8	1.3	1.8	2.7	12.1	81.3
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.0	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.1	△ 1.3	1.8
北 部	重 量 割 合	100.0	0.6	1.0	1.4	2.6	10.3	84.1
	平 均 値	100.0	0.6	1.1	1.3	1.8	9.7	85.5
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	0.1	0.8	0.6	△ 1.4
大 阪 (1.80mm)	重 量 割 合	100.0	1.0	1.7	2.9	3.5	16.0	74.9
	平 均 値	100.0	1.3	2.3	3.9	4.8	19.9	67.8
	対平均差 (ポイント)	0.0	△ 0.3	△ 0.6	△ 1.0	△ 1.3	△ 3.9	7.1
兵 庫 (1.85mm)	重 量 割 合	100.0	1.0	1.9	2.1	3.4	15.5	76.1
	平 均 値	100.0	0.9	1.7	1.9	2.9	15.4	77.2
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.1	0.2	0.2	0.5	0.1	△ 1.1
県 南	重 量 割 合	100.0	1.0	1.9	2.2	3.6	16.2	75.1
	平 均 値	100.0	0.9	1.7	1.9	3.0	15.7	76.8
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.1	0.2	0.3	0.6	0.5	△ 1.7
県 北	重 量 割 合	100.0	0.7	1.2	1.1	2.0	8.7	86.3
	平 均 値	100.0	0.8	1.1	1.3	1.9	10.7	84.2
	対平均差 (ポイント)	0.0	△ 0.1	0.1	△ 0.2	0.1	△ 2.0	2.1
淡 路	重 量 割 合	100.0	1.4	2.6	2.7	4.7	21.2	67.4
	平 均 値	100.0	1.3	2.4	2.6	3.9	20.7	69.1
	対平均差 (ポイント)	0.0	0.1	0.2	0.1	0.8	0.5	△ 1.7
奈 良 (1.80mm)	重 量 割 合	100.0	0.7	1.2	1.9	2.8	12.0	81.4
	平 均 値	100.0	0.9	2.0	2.4	3.4	15.9	75.4
	対平均差 (ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.8	△ 0.5	△ 0.6	△ 3.9	6.0
和 歌 山 (1.80mm)	重 量 割 合	100.0	0.6	1.0	1.3	1.5	7.8	87.8
	平 均 値	100.0	1.0	1.7	2.1	2.6	13.8	78.8
	対平均差 (ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.7	△ 0.8	△ 1.1	△ 6.0	9.0

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。

2 府県名の下に記載している括弧内の数値は、府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である（以下同じ。）。

## 5 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）

府 県 作柄表示 地 帯	区 分	単位	ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量					
			1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上
近 畿	10a 当たり収量	kg	517	512	505	495	480	414
	収穫量（子実用）	t	498,400	493,900	486,400	477,000	462,500	399,200
滋 賀	10a 当たり収量	kg	523	518	511	501	487	429
	(1.90mm) 収穫量（子実用）	t	151,700	150,300	148,200	145,300	141,200	124,400
湖 南	10a 当たり収量	kg	532	528	521	511	497	443
湖 北	10a 当たり収量	kg	505	500	492	482	468	401
京 都	10a 当たり収量	kg	514	510	505	497	484	429
	(1.85mm) 収穫量（子実用）	t	72,000	71,500	70,700	69,600	67,800	60,100
南 部	10a 当たり収量	kg	521	517	511	503	489	433
北 部	10a 当たり収量	kg	506	503	498	491	478	426
大 阪	10a 当たり収量	kg	503	498	489	475	457	377
	(1.80mm) 収穫量（子実用）	t	22,800	22,600	22,200	21,500	20,700	17,100
兵 庫	10a 当たり収量	kg	513	508	498	487	470	390
	(1.85mm) 収穫量（子実用）	t	177,000	175,200	171,900	168,200	162,100	134,700
県 南	10a 当たり収量	kg	515	510	500	489	470	387
県 北	10a 当たり収量	kg	504	500	494	489	479	435
淡 路	10a 当たり収量	kg	510	503	490	476	452	344
奈 良	10a 当たり収量	kg	522	518	512	502	488	425
	(1.80mm) 収穫量（子実用）	t	43,900	43,600	43,100	42,200	41,000	35,700
和 歌 山	10a 当たり収量	kg	519	516	511	504	496	456
	(1.80mm) 収穫量（子実用）	t	31,000	30,800	30,500	30,100	29,600	27,200

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。  
2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

## 6 令和4年産水稻の作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況

単位：%

府 県	区 分	計	10a 当たり玄米重の分布							
			100kg 未 満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700kg 以 上
近 畿	筆 数 割 合	100.0	0.1	0.4	1.8	7.0	24.8	44.9	18.8	2.2
	前 年 値	100.0	0.4	0.1	1.8	7.7	29.5	46.6	13.1	0.8
	対前年差（ポイント）	0.0	△ 0.3	0.3	0.0	△ 0.7	△ 4.7	△ 1.7	5.7	1.4
滋 賀	筆 数 割 合	100.0	0.5	0.5	1.4	7.6	20.0	42.8	22.9	4.3
	前 年 値	100.0	1.0	0.5	2.4	5.2	21.4	48.1	19.5	1.9
	対前年差（ポイント）	0.0	△ 0.5	0.0	△ 1.0	2.4	△ 1.4	△ 5.3	3.4	2.4
京 都	筆 数 割 合	100.0	-	0.7	1.4	7.1	28.6	43.6	18.6	-
	前 年 値	100.0	-	-	0.7	12.9	26.4	44.3	15.7	-
	対前年差（ポイント）	0.0	-	0.7	0.7	△ 5.8	2.2	△ 0.7	2.9	-
大 阪	筆 数 割 合	100.0	-	-	-	2.0	26.0	72.0	-	-
	前 年 値	100.0	-	-	-	8.0	48.0	38.0	6.0	-
	対前年差（ポイント）	0.0	-	-	-	△ 6.0	△ 22.0	34.0	△ 6.0	-
兵 庫	筆 数 割 合	100.0	-	-	3.0	8.3	26.5	40.5	19.1	2.6
	前 年 値	100.0	-	-	3.0	7.4	37.0	42.1	9.6	0.9
	対前年差（ポイント）	0.0	-	-	0.0	0.9	△ 10.5	△ 1.6	9.5	1.7
奈 良	筆 数 割 合	100.0	-	-	1.0	6.0	31.0	40.0	20.0	2.0
	前 年 値	100.0	-	-	-	5.0	28.0	58.0	8.0	1.0
	対前年差（ポイント）	0.0	-	-	1.0	1.0	3.0	△ 18.0	12.0	1.0
和 歌 山	筆 数 割 合	100.0	-	1.0	2.0	6.0	19.0	53.0	18.0	1.0
	前 年 値	100.0	1.0	-	2.0	9.0	26.0	49.0	13.0	-
	対前年差（ポイント）	0.0	△ 1.0	1.0	0.0	△ 3.0	△ 7.0	4.0	5.0	1.0

注：10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

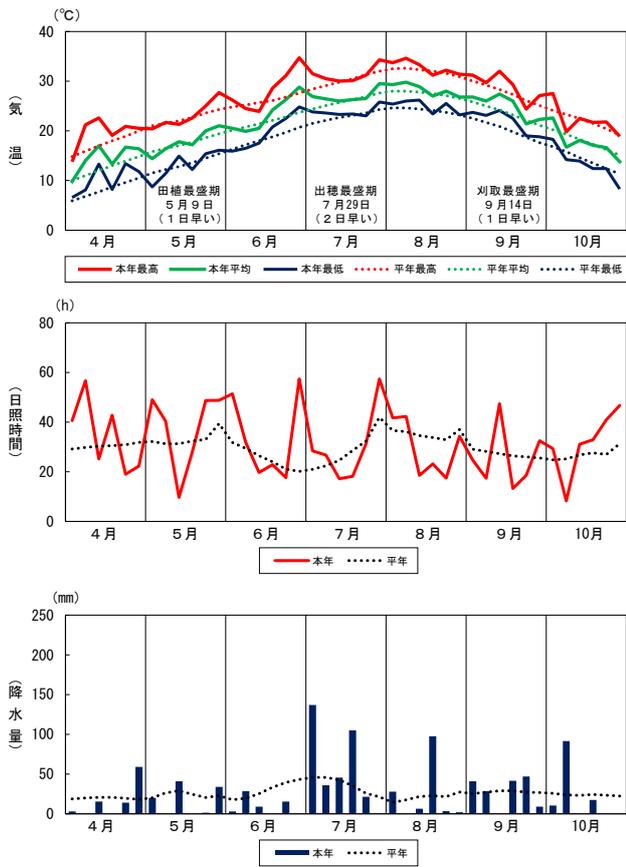
## 7 令和4年産水稻の被害面積及び被害量（近畿）

被害種類	被害面積	被害量	被害率	
			実数	対前年差
	ha	t	%	ポイント
冷害	-	-	-	-
日照不足	43,600	6,100	1.2	△ 1.0
高温障害	19,400	2,170	0.4	0.3
いもち病	16,200	4,220	0.9	△ 0.8
ウンカ	3,750	333	0.1	0.0
カメムシ	10,800	851	0.2	0.1

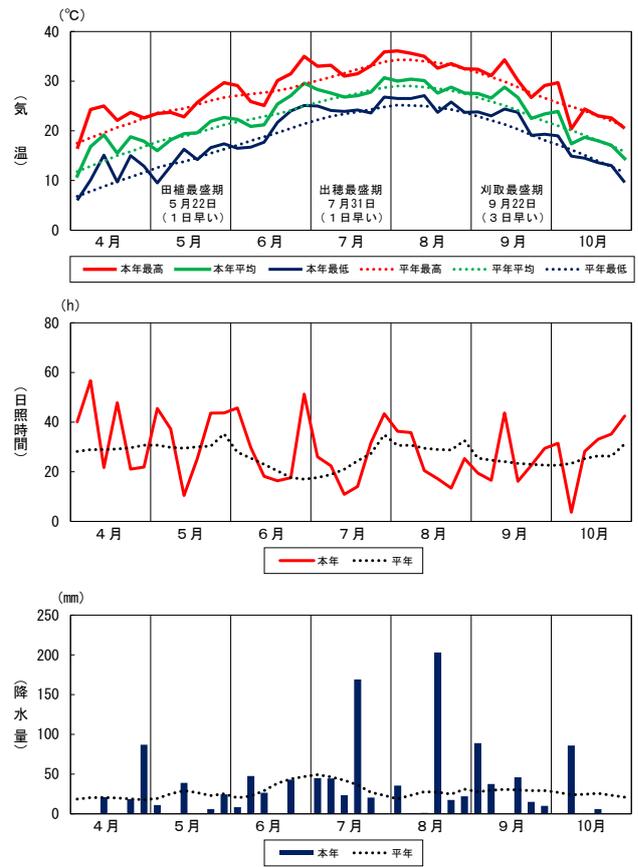
注：ウンカは、トビイロウンカ、セジロウンカ及びヒメトビウンカをいう。

◎ 令和4年の気象概況

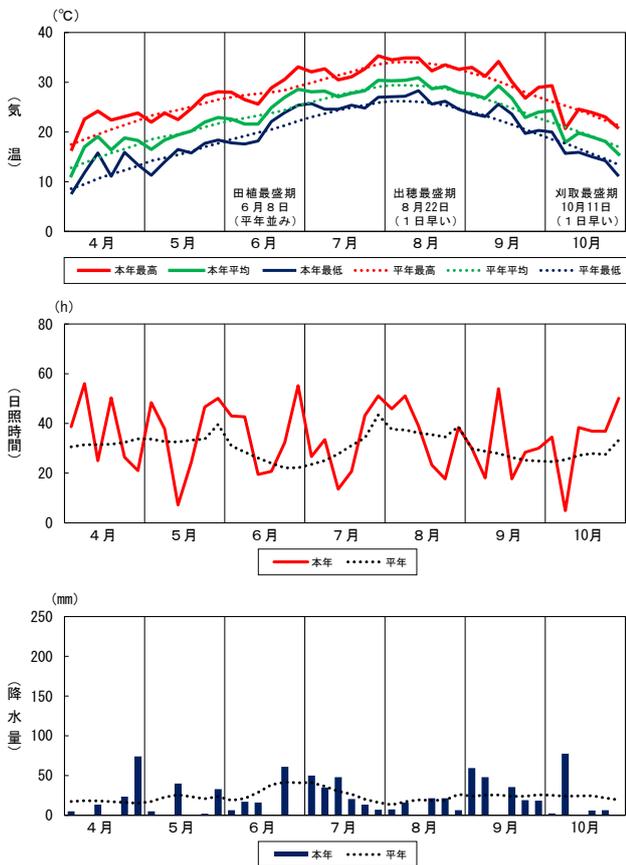
1 滋賀県（観測地点：彦根）



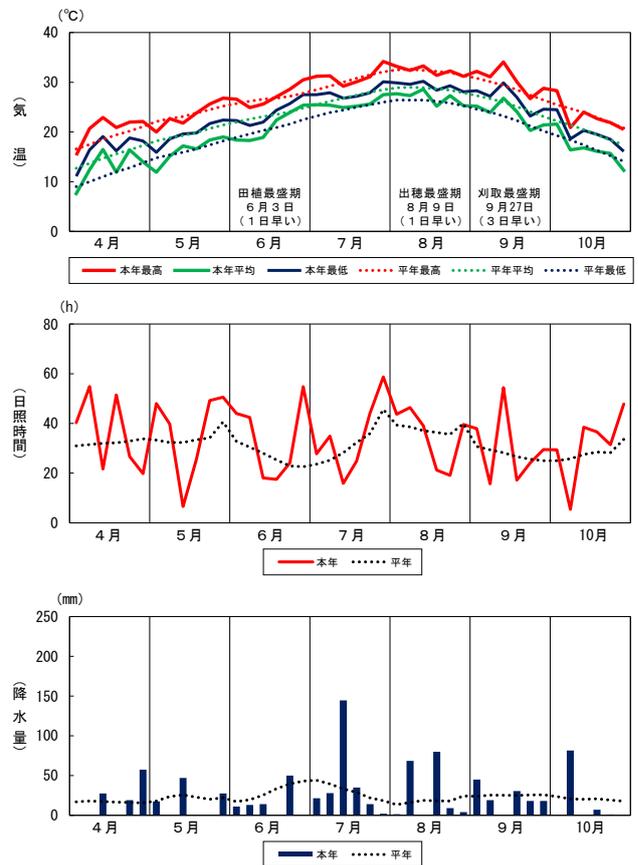
2 京都府（観測地点：京都）



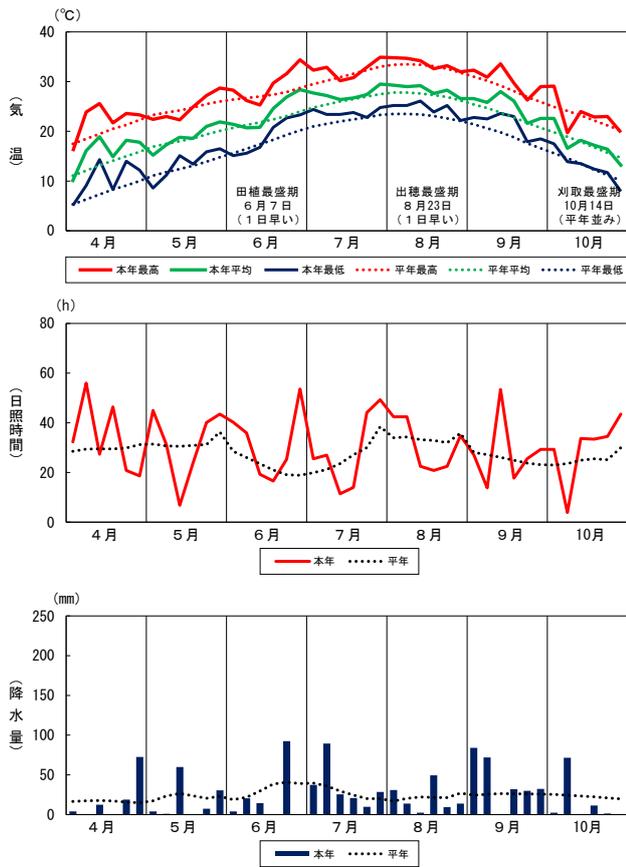
3 大阪府（観測地点：大阪）



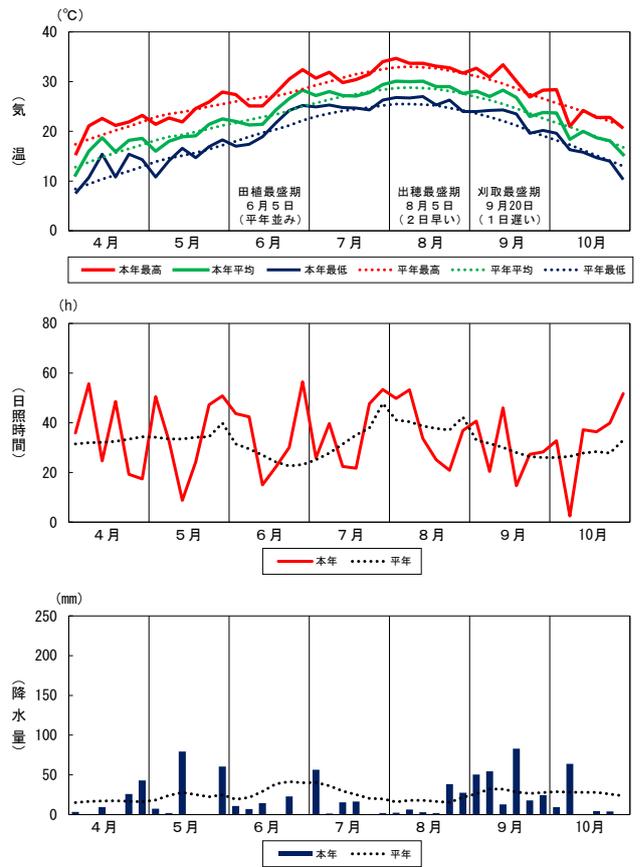
4 兵庫県（観測地点：神戸）



5 奈良県（観測地点：奈良）



6 和歌山県（観測地点：和歌山）



資料：気象庁『アメダスデータ』

注： 田植最盛期、出穂最盛期及び刈取最盛期は、各府県平均の期日である。

なお、（ ）内は、対平年差である。

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・収穫量等を明らかにすることにより、米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証、経営所得安定対策の交付金算定、農作物共済事業の適切な運営等のための農政の基礎資料を整備することを目的としている。

### 2 調査の対象

#### (1) 調査の範囲

本調査は、全国の各都道府県を対象に実施している。

#### (2) 調査対象の選定

##### ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された全ての耕地

##### イ 収穫量調査

水稻が栽培されている耕地

#### (3) 調査対象数

##### ア 作付面積調査

滋賀県 標本単位区：521単位区

京都府 標本単位区：434単位区

大阪府 標本単位区：320単位区

兵庫県 標本単位区：999単位区

奈良県 標本単位区：307単位区

和歌山県 標本単位区：479単位区

##### イ 収穫量調査

滋賀県 作況標本筆：210筆 作況基準筆：3筆

京都府 作況標本筆：140筆 作況基準筆：14筆

大阪府 作況標本筆：50筆 作況基準筆：11筆

兵庫県 作況標本筆：230筆 作況基準筆：5筆

奈良県 作況標本筆：100筆 作況基準筆：5筆

和歌山県 作況標本筆：100筆 作況基準筆：2筆

### 3 調査事項

水稻の作付面積、10a当たり収量、収穫量、穂数・もみ数等の生育状況、登熟状況、被害状況、被害種類別被害面積・被害量、耕種状況等

### 4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和4年7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

### 5 調査・集計方法

#### (1) 作付面積調査

##### ア 母集団の編成

空中写真(衛星画像等)に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方(北

海道にあっては、400m四方)の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団としている。

なお、単位区については、区画内に存する耕地について筆ポリゴン(衛星画像等を基に面積調査用の地理情報システムにより筆(けい畔等で区切られた現況一枚のほ場)ごとの形状に沿って作成した面をいう。)を作成し、地目(田又は畑)等の情報を登録している。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報を補正することにより整備している。

#### イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層(「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」)に分類し、そのそれぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層(性格階層)に分類している。

#### ウ 調査対象数の算出

都道府県別の調査対象数は、耕地の田畑別面積又は水稲作付面積を指標とした全国的目標精度(田:0.16%、畑:0.50%、水稲:0.22%)が確保されるように設定した都道府県別の目標精度(田:おおむね0.5~2%程度、畑:おおむね1~5%程度、水稲:おおむね0.5~3%程度)に基づき算出する。

#### エ 調査対象数の配分及び抽出

ウにより算出した調査対象数を、都道府県別の地目階層別に、総単位区数に耕地の田畑別面積又は水稲作付面積の母標準偏差を乗じた結果に比例して配分し、次いで、地目階層別の調査対象数を、性格階層別に当該性格階層の総単位区数に比例して配分の上、系統抽出法により抽出する。

#### オ 実査(対地標本実測調査)

抽出した標本単位区内の水稲が作付けされている全ての筆について、職員又は統計調査員により1筆ごとに現況地目、耕地の境界及び作付けの状況を確認する。

#### カ 推定

水稲作付面積の推定においては、都道府県別に面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況の水稲作付見積り面積の合計」の比率を「母集団(全単位区)の田の台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率(田台帳面積に対する実面積の比率)を乗じることににより、全体の面積を推定し、職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況水稲作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

なお、近畿の値は、府県別の値を合計して算出した。

#### キ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

### (2) 収穫量調査

#### ア 母集団

(1)のイにより、「田のみ階層」及び「田畑混在階層」の地目階層に分類される単位区を母集団としている。

#### イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稲の作柄を表示する区域として、水稲の生産力(地

形、気象、栽培品種等)により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

ウ 調査対象数の算出

都道府県別の調査対象数は、全国の目標精度(0.3%)が確保されるように設定した都道府県別の目標精度(1~2%)に基づき算出する。

エ 標本配分及び抽出

都道府県別の調査対象数を階層別に水稻の作付面積に10a当たり収量の標準偏差を乗じた結果に比例して配分する。

階層別に配分された調査対象数を単位区の水稲作付面積(田台帳面積)に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稻が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆(実測調査を行う筆)とする。

オ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

カ 10a当たり玄米重の算定

各作況標本筆について、一定株数(1㎡分×3か所の株数)の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米(農産物規格規程(平成13年2月28日農林水産省告示第244号)に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの)となるように選別し、各作況標準筆の10a当たり玄米重を決定する。

各作況標本筆の10a当たり玄米重の平均を基に階層ごとの10a当たり玄米重を推定し、水稻作付面積で加重平均することにより都道府県別の10a当たり玄米重平均値を算出する。

キ 10a当たり収量の推定

カにより算出した都道府県別の10a当たり玄米重平均値に、コンバインのロス率(コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス)や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10a当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆(10a当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。)の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

ク 収穫量及び被害量

キにより推定した10a当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。

## 6 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稲、わら専用稲等を含む。)のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「10a当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。
- (3) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家

等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

令和4年産の作況指数の算出に用いるふるい目幅					
府 県	農家等 使用目幅	府 県	農家等 使用目幅	府 県	農家等 使用目幅
滋 賀	1.90mm	京 都	1.85mm	大 阪	1.80mm
兵 庫	1.85mm	奈 良	1.80mm	和歌山	1.80mm

- (4) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (6) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (7) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (8) (4)から(7)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (9) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に収穫されると見込まれる収量から減収した面積をいう。
- (10) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に収穫されると見込まれる収量より減収した量をいう。
- (11) 「被害率」とは、平年収量（作付面積×10a当たり平年収量）に対する被害量の比率をいう。
- (12) 「作柄表示地帯」とは、水稻作況調査における調査結果の分析、検討、提供及び利用のため、地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、都道府県内を水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域をいう。

近畿各府県の作柄表示地帯の包括範囲は次表のとおりである。

府県名	作柄表示地帯名	市 町 村 名
滋賀	湖南	大津市、彦根市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、東近江市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
	湖北	長浜市、高島市、米原市
京都	南部	京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、南丹市、木津川市、大山崎町、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村、京丹波町
	北部	福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
大阪	大阪	大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、大東市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、四條畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市、島本町、豊能町、能勢町、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村
兵庫	県南	神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、芦屋市、伊丹市、相生市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、丹波市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町
	県北	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
	淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市
奈良	奈良	奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市、山添村、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、曾爾村、御杖村、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村
和歌山	和歌山	和歌山市、海南市、橋本市、有田市、御坊市、田辺市、新宮市、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、高野町、湯浅町、広川町、有田川町、美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町

注：大阪府、奈良県及び和歌山県は分割していない。

## 7 その他

この資料の詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和5年2月予定）するとともに、その後、『近畿農林水産統計年報』にも掲載する。

なお、この資料に掲載した数値の正誤情報は、近畿農政局ホームページでお知らせする。

**【ホームページ掲載案内】**

- 近畿の統計調査結果は、近畿農政局ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/> 】

- 全国の統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 [https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_kome/index.html#y5](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y5) 】

**【関連リンク】**

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

## 【お問合せ先】

### ◎本統計調査結果について

近畿農政局統計部生産流通消費統計課

電話：(代表) 075-451-9161 内線2656

(直通) 075-414-9650

F A X : 075-417-2067

近畿農政局 滋賀県拠点 統計チーム

電話：(直通) 077-522-4344

F A X : 077-526-3062

近畿農政局 大阪府拠点 統計チーム

電話：(直通) 06-6941-9659

F A X : 06-6944-1208

近畿農政局 奈良県拠点 統計チーム

電話：(直通) 0742-32-1874

F A X : 0742-36-2985

近畿農政局 統計部 統計調査チーム

電話：(直通) 075-366-2005

F A X : 075-451-0079

近畿農政局 兵庫県拠点 統計チーム

電話：(直通) 078-391-2873

F A X : 078-392-7558

近畿農政局 和歌山県拠点 統計チーム

電話：(直通) 073-436-3835

F A X : 073-436-5002

### ◎農林水産統計全般について

近畿農政局統計部統計企画課

電話：(直通) 075-414-9620

F A X : 075-417-2067



**政府統計**

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



## スマホでみる農林統計

★近畿の府県別、市町村別の主要農林水産統計データをスマートフォンで簡単に閲覧できます。

近畿農政局ホームページから、PDF ファイルをダウンロードして、御利用いただけます。動作には、別途 Adobe Reader が必要です。

URL : <https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/smapho/PDF/200403.pdf>

